kitchenhouse

Kriivista

n.02

contents | 特集　ベトングレーのある風景

01. *p4 - p9*

02. *p10 - p15*

03. *p16 - p21*

04. *p22 - p27*

05. *p28 - p33*

n.02 Krivista

kitchenhouse

Landscape with Betongrey

特集　ベトングレーのある風景

01.

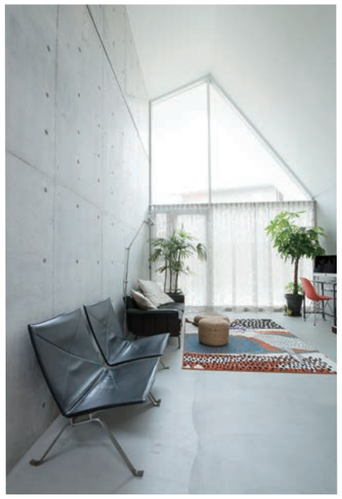
Landscape with Betongrey

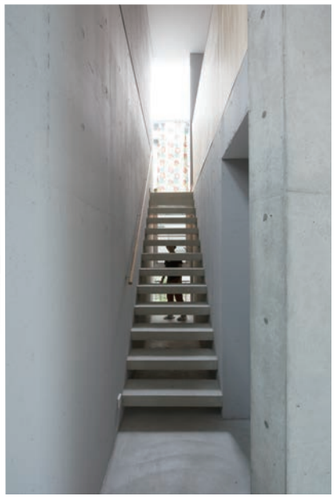
01. G邸

Landscape with Betongrey

G邸は住宅密集地に建てられた、大きなリビングダイニングを持つ「アトリエ」のような住まい。立地上リビング以外に大きな採光がとれないため、M型の大きな屋根を載せて高所から光を取り込んでいます。壁仕上げはコンクリート打ちっぱなしと白い塗装の組み合わせで、後者はコンクリート素地を完全に隠蔽しない仕上げとしたため、とても表情豊か。屋内に入った間接光による陰影のグラデーションも良い雰囲気を出し、シンプルな内装仕上げですが見飽きることがありません。インテリアで特に目を引くのは、無垢材に段差をつけて継ぎ合わせたダイニングテーブル。これは当初から奥様の頭の中にあったアイディアで、どうしてもイメージに合う市販品が見つからず、ご友人に頼んでつくってもらったというこだわりの品。キッチンは、プランニング初期段階ではステンレスやコンクリートを採用した硬派なスタイルを考えていたようです。しかし、ショールームで、滲んだ墨色のような「ベトングレー」のアイランドキッチンをご覧になり、味のある色柄と、直線で構成された置き家具のような端正なフォルムに一目惚れして即決されました。このキッチンは、全体としてオブジェのような存在感を発揮する一方、IHクッカーやシンク、水栓、各部のディテールが四角いテイストで統一されているため、とてもすっきりした印象です。バックセットは建築家がOSB合板を使って設計した造り付けのオープンシェルフで、日常使いの品を置き、生活に密着して豊かさを演出するスペースです。休日の朝はご主人が丁寧に豆を挽いて、香り高いコーヒーを入れることが習慣になっているとのことですが、その際に使用されるヴィンテージ物のコーヒーグラインダーもこちらに置かれています。実はこのバックセットは裏側も収納として活用されており、そちらは保存食やあまり使用しない調理家電のストッカーとなっています。全体としてG邸のインテリアは、モダンな内装にクラシックなソファが置かれていたり、自然でラフなテイストと工業製品的なシンプルスタイルが無理なく共存しているのが特徴で、世俗的なキーワードで括れない絶妙なデザインバランスを保っています。一見、個々のアイテムの方向性が異なっているように見えても、できあがりを見るとひとつの空間として「マッシュアップ」されている。これは「無駄のない物。素材そのままの表情が好き」とおっしゃるご夫婦の、価値観の軸にぶれが無い証左のように思われます。

photo : Satoru Inoue





01. Landscape with Betongrey

12F0103

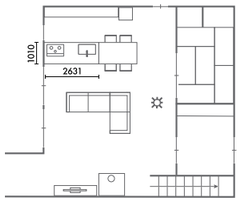
02.

Landscape
with
Betongrey

02. T邸

Landscape with Betongrey

T邸の内装は、伝統的な仕舞屋 (しもたや) のような素晴らしい出来映えです。吹き抜けのリビング・ダイニングには光がふんだんに入り、穏やかに風が通り抜けて心地よい。その一方、現代的な建築らしく密閉度にも優れ、開口部を閉め切れば冬を暖かく過ごすことが出来ます。また、随所に新しい感覚を併せ持っており、枝付き檜の大黒柱も単なる飾りではなく、お子さん達が子供部屋に上がる梯子として活用されています。また、珪藻土の漆喰と天然木を多用した内装により居室の空気はとても澄んで爽やか。家族の健康を気遣う施主のこだわりが感じられます。キッチンは、奥様がショールームに何度か足を運んで決められました。作業中の歩行を少なくすることに重きをおいた、調理に特化したコンパクトな設計。キャビネットの配置はガスクッカー / オーブンの右にスパイスラック、左にボトルラックというお料理好きの奥様らしいチョイスで、ドイツ製食器洗い機を挟んでシンクキャビネット。その横には耳付き (丸太を割いてそのまま用いた) 天然木のダイニングテーブルが設置されています。このキッチンの特徴はバックセット側に十分な収納を設け、ペニンシュラ部分は調理機能に的を絞ったことです。必要な物品をバックセット側から運び、全ての作業が終わると元の場所に戻されていく。作業スペースを必要十分な面積にしたことで、汚れる部分も最小限になり、お手入れが楽なキッチンになりました。インテリアコーディネイトに関しても、バックセットを含め家の壁面・床面が明るいナチュラルテイストで統一され、直方体のキッチンが塊感のある「ベトングレー」での居室全体を引き締めています。単に「ベトングレー」の色を配置したというより、清々しい朝に打ち水された石畳の道を歩く気分を取り入れた。という表現が似つかわしい、カジュアルで心穏やかになるインテリアです。



02. Landscape with Betongrey

117-001724

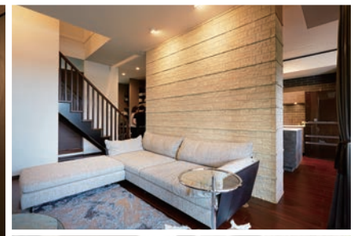
03.

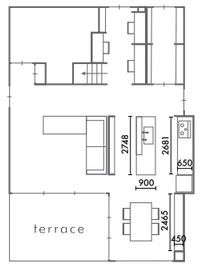
Landscape
with
Betongrey

03. A邸

Landscape with Betongrey

中央のリビングに南側ベランダから光を取り入れ、それを取り囲むように玄関やキッチンを配置した建築プラン。リビングに光が溢れているのとは対照的に、それを取り囲む居室はダークブラウン系のインテリアに統一され、抑制の効いた採光とあいまって落ち着いた印象。キッチンからリビングに抜けるときの明暗の差は少しばかりドラマチックであり、逆に明るさを抑えたキッチンに入るときには安心感に包まれる。ご家族が快適に過ごすために何が重要か。どこで何をするか。信頼する建築設計士と綿密に打ち合わせされたというのも頷けます。奥様のご実家は以前からキッチンハウスをお使い頂いており、そのキッチンの使い勝手の良さとオーダーの柔軟性から、本邸でもご指名頂くことになりました。キッチンの扉をご実家と同じ「ベトングレー」にされたほどの惚れ込みようでしたが、壁や床仕上げとのバランスを考慮して、ワークトップ表面だけは明い「ホワイト」を選ばれました。キッチンのレイアウトは変則的な二列型で、壁に面したカウンターに加熱調理機器をまとめ、シンクはアイランドに設けています。シンク奥につしらえた一段高いデッキは手元隠しと水跳ね防止のための特注品で、立ち上げ部分にコンセントも取付けられ、オーダーキッチンならではの使い勝手が実現しています。このキッチンは小さなお子さん達と会話を楽しみながら調理作業を行うスタイルですが、調理スペースの傍にお子さんを座らせるタイプではありません。コミュニケーションを大切にしながらも、作業者とそれ以外のご家族の領域を区別しています。その雰囲気作りに役立っているのが調理機器の反対側に設けられた大きな本棚。お子さん達に自分たちの居るべきところを意識させる一方で、大人の鑑賞にも堪える趣味性の高いインテリアとして成立しています。この本棚の仕掛けがご家族を誘導することによって、ふたつのキッチンカウンターの間に安全な作業動線が確保出来ています。居心地の良い空間をつくったら家族が自然に集まり寛ぐようになった。勿論、キッチンの機能は少しも損なうことなく。





03. Landscape with Betongrey

117-002400

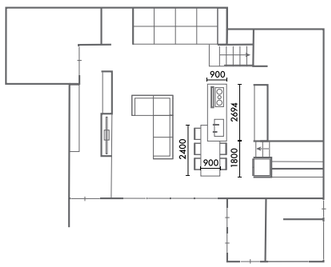
04.

Landscape
with
Betongrey

04. N 邸

Landscape with Betongrey

玄関から家の中に入るとすぐに大空間のリビングが広がる欧米風の開放的な間取り。リビングの床と板張り仕上げのテラスは視覚的に連続し、内と外とが緩やかにつながるスタイル。南側に掃き出し窓が連なる開口部が設けられていますが、大きめの庇と張り出した壁に守られているため直射日光が遮られ、柔らかな間接光が溢れています。リビングは天井が高い吹き抜けとなっており、階段など各部のディテールも風通しの良い設計で、大空間を穏やかな風がゆっくりと流れていきます。趣味の園芸で薔薇の花を愉しまれているとのことですが、自然への憧憬と理解が感じられるお住まいです。キッチンは「ベトングレー」のアイランドキッチンが採用されています。このカラーは天然素材を採用したインテリアと相性が良く、N 邸にも違和感なく溶け込んでいます。キッチン背面側には壁の色にあわせた白いバックセットが配置されていますが、この配色はとても成功しており、オブジェのように見える、四角いベトングレーのキッチンが主張しすぎることも無く、部屋の中に佇んでいます。キッチンはコンパクトな設計で、調理作業に特化したものといえます。ドイツ製の食器洗い機を二つのキャビネットで挟み、片方に IH ヒーターと下引きレンジフードが納められています。反対側にはシャープな形状のステンレスシンクを配置し、ミキシングバルブと浄水器用水栓をスワンネックのタイプで揃えました。アイランド上に視界を遮るものがなく、とてもすっきりしています。個性的な造りつけテーブルはショールームで一目惚れした逸品。「白雪姫」のモデルになったお姫様が住んでいたともいわれるドイツの古い町、ローア・アム・マインに産する「トリュフ・ビーチ」のテーブルです。自然のいたずらでブナの大木に生じた模様は、もちろん世界で一つだけのもの。直方体の「ベトングレー」のキッチンに差し込まれ端面にテーパー加工が施されているテーブル板はとてもシャープな印象で、厚さ 9mm の黒いスチールでつくられたメタルフロート脚がとてもマッチしています。銘木を伝統工芸品としてではなくモダンデザインのアクセントとして採用したことで、とても軽やかで質の高いインテリアに仕上りました。



04. Landscape with Betongrey

117-001975

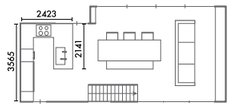
05.

Landscape
with
Betongrey

05. O邸

Landscape with Betongrey

O邸はデザイン感度も高く社交的なご家族三人のお住まいですが、その思いとこだわりが詰まった仕上りになりました。キッチンは都会的な「ベトングレー」を前面に押し出した堂々たる仕上り。プランはコの字型キッチンをベースにしたオープンスタイルで、スペースを有効に使って効率良く機能を配置しています。完全に物品をしまい込んでしまうのではなく、いつでも料理を始められるように準備されている、お忙しいご夫婦に似つかわしいキッチンです。水回りは手板金シンクにフレキシブル・スパウトタイプの水栓と、ソープディスペンサーという組み合わせで、綺麗好きのご夫婦らしいチョイス。シンクのすぐ左にはドイツ製の食器洗い機が配置されており、効率的に後片付けが出来ます。壁に面して IH クッカーが設置されていますが、クッカーの背面をあえて内装壁と同じ白で仕上げたことで壁面がとてもすっきりしています。さらにその奥には壁にモザイクタイルがあしらわれたお洒落な卓上家電スペースと、その並びにウォールオーブンを配置。デザイン的なまとまりの良さを感じる一方、無駄なスペースが殆ど無いのがこのキッチンの特徴で、その意味ではビストロキッチンに近いレイアウトといえるかもしれません。冷蔵庫はご主人のこだわりでワインセラーを備えた大型のものが設置されました。キッチンは作業者が二人立って作業出来るスペースが確保されていますが、その状態でも冷蔵庫前スペースはゆったりとしており、第三者が飲み物を取りにきても問題無く扉を開閉出来ます。また、ダイニングに面した収納も工夫されており、右端キャビネットは深さがたっぷりある引出しとなっていて、カトラリー類をまとめて収納出来ます。来客の多いご家庭では非常に使い勝手が良いことでしょう。O邸のキッチンは、手掛け形状の「ベトングレー」扉に同色の薄天板を載せたデザインが第一の魅力で、リビング・ダイニングのノッティーなインテリアにとてもマッチしていますが、キッチンをどう使うかというイメージが明解で、実用性についてもよく吟味されていることが分かります。お客様を招いての楽しい食事の風景が垣間見えるようですね。



05. Landscape with Betongrey

123-007475

Krivista

キッチンハウス

東京店／世田谷ショールーム
〒158-0093 東京都世田谷区上野毛1丁目6-8
Tel.03-3705-8411

東京店／本牧 テラスショールーム
〒231-0821 神奈川県横浜市中区本牧原 1-4 ムラーラ本牧 1F
Tel.045-629-5281［完全予約制］

東京店／目黒オフィス
〒152-0003 東京都目黒区碑文谷５丁目14-17
Tel.03-5768-3311

北関東店
〒375-0054 群馬県藤岡市上大塚1228
Tel.0274-24-4141

名古屋店
〒464-0026 愛知県名古屋市千種区井上町13-3
Tel.052-781-7070

大阪店
〒550-0013 大阪府大阪市西区新町1丁目7-20
Tel.06-6536-3690

岡山店
〒700-0976 岡山県岡山市北区辰巳 11-106
Tel.086-805-8258［完全予約制］

福岡店
〒812-0853 福岡県福岡市博多区東平尾２丁目16-8
Tel.092-627-3600

上海店
〒200030 上海市徐汇区凱旋路 3021号 32—33室
Tel.021-6427-0800

藤岡工場
〒375-0054 群馬県藤岡市上大塚1228
Tel.0274-23-6661

提携店

札幌店
〒060-0031 北海道札幌市中央区北１条東２丁目5-3
Tel.011-200-2737

ホルツ
〒981-0913 宮城県仙台市青葉区昭和町３丁目15 ネオプラザ北仙台 1F
Tel.022-234-1266

ハートハウス
〒921-8064 石川県金沢市八日市５丁目493-1
Tel.076-240-3838

米三
〒930-0044 富山県富山市中央通り１丁目5-10
Tel.076-424-3231

アクアリビング
〒430-0929 静岡県浜松市中区中央１丁目3-3
Tel.053-454-8177

KISS
〒790-0913 愛媛県松山市畑寺３丁目11-31
Tel.089-946-1141

アルス
〒852-8117 長崎県長崎市平野町 22-19
Tel.095-814-0611

オデオン
〒890-0055 鹿児島県鹿児島市上荒田町14-24
Tel.099-257-3524

本誌はキッチンハウスから不定期にお届けする季刊誌です
製品の色は印刷物のため実際の色とは異なる場合がございます
掲載製品は製品改良のため予告なく変更する場合がございます
本誌の記載内容は 2017 年９月現在のものです

kitchenhouse

www.kitchenhouse.jp

GR 170910